

## サシバ *Butastur indicus* (Gmelin)

### 【選定理由】

以前は夏鳥として半島部や丘陵部、平野部に面した山麓から標高 1,000m の山地まで、県内に広く分布して繁殖していた。渥美半島や知多半島、尾張東部丘陵でも繁殖していたが、2019 年現在尾張地域で繁殖が確認されているのは 1 ペアのみ、西三河南部でも 2 ペアが残るのみで、県内に生息する現在の繁殖個体数は、1970 年代の 1/5 程度と推測される。

### 【形態】

全長 47～51cm、翼開長 102.5～115cm。翼は長くてやや細い。成鳥は、頭から背にかけて赤みのある褐色で、腹に茶褐色の横斑、喉の中央に明瞭な縦線が 1 本あり、目は黄色。雄成鳥は、頭部に灰色味が強い。幼鳥は、上面に赤味がなく胸から腹にかけて縦斑、汚白色の太い眉斑があり、目は暗褐色。飛翔時の下面は白っぽく、翼がやや細めに見え、尾羽に横帯、風切に横斑がある。



愛知県, 2019 年 6 月 9 日, 杉山時雄 撮影

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

現在は夏期に山間部で繁殖し、春秋の渡りでは平野部を含む県内のほぼ全域を通過する。

#### 【国内の分布】

北海道を除く全国で繁殖し、南西諸島では少数が越冬する。

#### 【世界の分布】

ロシアのアムール以南、中国東北部、朝鮮半島北部、および日本で繁殖し、南西諸島、台湾、中国南部、ミャンマー、インドシナ、マレー半島、フィリピン、ボルネオ、マルク諸島、ニューギニアなどで越冬する。

### 【生息地の環境／生態的特性】

本州には 3 月下旬から飛来して繁殖し、主に 9 月下旬から 10 月上旬に越冬地へ渡去する。アカマツを好んで営巣する種であったが、県内のアカマツは松枯れによりそのほとんどが消滅しており、近年はスギなどで繁殖する例が増えている。水田、畑、湿地、伐採跡地などの開けた土地で狩りを行うことが多く、谷に耕地が入り込んだ里山環境を主な生息地としている。主にカエル、ヘビ、トカゲ、昆虫類を捕食し、時にはヒミズやネズミ、小型の鳥類などを捕食することもある。

### 【現在の生息状況／減少の要因】

本種の生息に適しているのは、本来の日本に存在していた里山環境である。近年山林や農地が放棄され、本種の採餌環境である手入れされた農耕地が消失している。加えて繁殖期に本種が採餌場として利用できるのは、人や車の往来が少ない里山に限られる。里山を通る道路が整備され通過する人や車が増加すると、繁殖する本種は消滅しており、一旦消滅した場所には、環境が改善されても戻らないのが本種の特徴である。

### 【保全上の留意点】

農林業の振興は国内の野生生物にも重要であり、環境を変える場合は生物への配慮が必要である。

### 【特記事項】

県内に生息する本種の中で、本来の里山環境で繁殖しているのは、猿投山系周辺と本宮山系周辺、およびその間にある三河高原一帯に分布しているものが大半である。それ以外の場所で繁殖しているものの多くは「山サシバ」と呼ばれ、山地が主な餌場であるために生息密度はかなり低い。

### 【関連文献】

五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸, 2014. 新訂 日本の鳥 550 山野の鳥, pp.76-77. 文一総合出版, 東京.

(高橋伸夫)